

令和6年3月6日

## 令和5年度 学校評価報告書

宮城県立支援学校女川高等学園  
校長 浅水 啓一郎

### 1 教育目標

一人一人の人格と個性を尊重しながら、生徒の特性に応じた適切な職業教育を行い、自己の持つ能力や可能性を伸ばし、社会的・職業的に自立できる心身ともに健康で、誰からも愛される生徒を育成する。

#### <今年度の努力目標>

- (1) 生徒一人一人の実態に応じた学習指導・生活指導・進路指導の充実
  - ・就労に必要な知識、技能等の獲得
  - ・自己及び対人関係における対応能力の強化
  - ・生徒同士、生徒と教師、生徒と地域社会との対話
- (2) 地域を理解し、地域に貢献できる生徒の育成
  - ・近隣小中高校、関係機関との連携
  - ・地産地消を踏まえた食育の取組
  - ・地域の文化行事等への積極的参加
- (3) 特別支援学校のセンター的機能の充実と理解啓発
  - ・教育実践の積極的な情報発信による特別支援教育の理解啓発
  - ・地域の小中高校のニーズに応じた相談、研修支援等の実施
- (4) 地域と共に学ぶ防災教育の充実
  - ・女川町や県内の被災地との連携を図る実践的な防災教育の展開
  - ・防災ボランティア
  - ・校舎内外の環境整備
  - ・安全な通学路の確保
- (5) 学校運営協議会の設置及び推進
  - ・地域と共にある学校づくりを推進する仕組みの構築
  - ・魅力ある学校づくりの推進
  - ・教育活動の内容を効果的に発信する取組

### 2 全体分析について

全体分析は、以下の基準でABC評価し分析を行いました。

評価	基準
A評価	「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が90%以上
B評価	「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が60%以上～90%未満
C評価	「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が60%未満

#### 【分析】

評価者	回答者数	項目数	A評価	B評価	C評価
生徒	57	30	24	6	0
保護者	57	35	31	4	0
教職員	53	37	34	3	0

[※対象生徒・保護者 各59名(1年16名, 2年19名, 3年24名), 対象教職員 53名]

### 3 考察及び課題と改善策について

生徒、保護者、職員の三者において、いくつかの項目でB評価という結果になりました。そのB評価の項目について細かく数値を拾っていくと、A評価（肯定的な評価が90%以上）には及ばなかったものの、すべての項目で肯定的な評価が80%以上に達しており、概ね適切な学校運営を行うことができていたのではないかと考えております。各学年・分掌部においては、集計結果及び自由記述と教職員間での反省とを照らし合わせながら詳細分析を行い、次年度に向けての課題と改善策を検討していくことで確認しました。

生徒評価では、6つの項目でB評価という結果になりました。その中で肯定的な評価が最も低かった項目（87.7%）がNo.3「**先生方は、授業の中で、できたことや頑張ったことを伝えている。**」でした。これは、教育目標にある「一人一人の人格と個性を尊重しながら…」、努力目標にある「生徒一人一人の実態に応じた…」に対して、さらに教職員のきめ細やかな支援や指導が必要であることを裏付けている結果であると捉えております。その改善策として、生徒の頑張りを察知するための日頃からの目配りやフィードバックの仕方などについて、生徒に寄り添った支援・指導ができるように教職員の専門性の更なる向上を図っていきたいと考えております。

また、B評価になった6つの項目のうち2つの項目が寄宿舎の住環境整備に関する内容でした。自由記述欄にも生徒からのいろいろな要望が挙げられております。限られた環境・予算の中で実現可能なものについては前向きに検討を進めていきたいと考えております。

保護者評価では、4つの項目でB評価という結果になりました。その中で肯定的な評価が最も低かった項目がNo.16「**学校は、福祉サービスや相談事業所など卒業後の生活に必要な情報を提供している。**」です。この項目については、以前から大きな課題となっており、進路指導充実事業の内容を工夫したり、2・3学年の授業の中で就業・生活支援センターの方から講話をいただいたり、卒業後の生活をイメージできるような取組に努めてまいりました。これからも、生徒に対する取組を保護者と共有できるような機会の設定や情報発信に努めていきたいと考えております。

また、同じくB評価となった項目の一つにNo.23「**P T A活動は、学校職員や保護者同士の交流の機会となっている。**」があります。この項目についても、コロナ禍にあったことも含めて大きな課題となっておりました。今年度はコロナ禍が明け、3年ぶりに対面でのP T A総会や夜の参観（寄宿舎）を実施することができました。また、P T A会員数の減少や担い手不足という課題があり、P T A組織の見直しを図りました。今後は、P T A活動の運営をスマートに行いつつ、会員の皆様にとって有意義な機会となるような行事や活動を展開していきたいと考えております。